

# 報恩講法要

2024.10.26(土)

講師 安方 哲爾 先生

講題 むなしく過ぐる人ぞなし



報恩講とは、親鸞聖人のご遺徳を偲び讃える法要です。阿弥陀さまのすべての人々を救うというご本願を私たちにわかりやすく伝えて下さったのが宗祖親鸞聖人です。

親鸞聖人のご遺徳を偲び、阿弥陀さまのおはたらきに感謝して、浄土真宗との出遇いを深めて参りましょう。



本日は、西光寺様・西法寺様・西條寺様・正道寺様・大仙寺様・仏光寺様とともに奉讃大師作法のお勤めをしました。皆様揃って有り難いお勤めでした。

御法中の皆様、昨年と変わらずお元気で集まると和気藹々。素敵なお笑顔でご挨拶。8名での内陣出勤は報恩講法要ならではの、大変厳かで有り難いおつとめでした。阿弥陀さま、親鸞聖人からいただいた大切なご縁であります。



左の軸は『御絵伝』です。

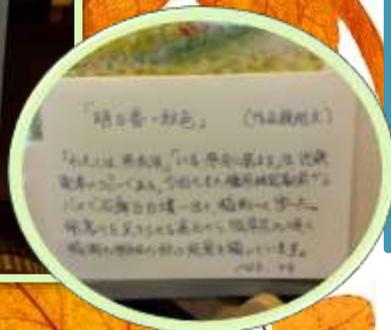
親鸞聖人の御生涯が絵で表され右より1幅～4幅となり、下から上へと仰ぎ見るように描かれています。

おつとめの後は『御俗姓<sup>ごぞくしょう</sup>』の拝読です。『御俗姓』とは蓮如上人が親鸞聖人の御生涯や信心をいただくことの重要性を記された書物です。



人は必ず命終えてゆきますが、その先を私が探すのではなく、阿弥陀さまが必ず私を抱いてお浄土へと導き、迎えて下さるので。だから死んでゆくのではなく、お浄土へ生まれさせていただくのです。浄土真宗の御教えは、私が浄土を理解し納得しようとするものではなく、阿弥陀さまのはたらきが届いていることをお聴聞するものであるとお聞かせ下さいました。

命終えることを「お浄土への御往生おめでとうございます」と味わえる御教えは浄土真宗だけではないでしょうか。報恩講に有り難いかけがえのないお取り次ぎをいただきました。



御門徒の原田さんが秋の作品を持ち寄って下さり、休憩時間には来られた方のホッと癒される時間・空間となりました。素敵な作品有り難うございました。

法要に際しまして、お供え上がりました。法要後、お参りの皆様に御下がりとしてお持ち帰りいただきました。またほっとけ米のお米も頂戴しました。有り難うございました。



多くの方が法要前には仏具のおみがきをして下さり、当日もお茶の準備、御下がりの仕分けや、その他様々に如来様の御給仕をして下さいました。御法中の皆様、御参詣下さった方ももちろん、多くの方々のお陰さまで無事に報恩講厳修することが出来ました。有り難うございました。

